



創立1880年

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18

日本キリスト教会館6階

Tel 03-6302-1960

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

発行所 公益財団法人

東京YMCA

発行人 菅谷 淳

東京YMCA

2021年

4

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

2021年度 運営基本方針

コロナ危機が長引き、差別や偏見、格差や貧困など、様々な困難が増大する社会において、人々が真に求める安全で安心できる生活に対応した新しい東京YMCAの姿を明確にして抜本的な改革と新規事業の開発を行う。

YMCAの運動、活動、事業ならびに組織、雇用、財政、危機管理を、劇的に変化する市民社会に合わせて再構築する。

東京YMCAグループに連なるすべての会員・職員・ボランティアが一体となって、わかりやすい団体、人々に必要とされ、無くてはならない選ばれる存在となるべくYMCAブランドを明確にして積極的に発信する。

コロナ禍がこの先も続く前提でYMCAの使命に立ち返り、ニューノーマル（新しい活動様式）に即した各種サービスの提供を行うことを目指します。そのために現在行っている事業・活動を目的別に見直して組み替え、雇用形態、財政、各種管理体制を整備するなどし、組織の再構築と既存事業の強化、新規事業の開発に力を入れます。

今、改めて「絆」

東京YMCA評議員会会長

古賀 博

東日本大震災から10年が経ちました。未曾有の災害によって約2万人もの命が失われ、家や暮らし、多くの関係性が破壊された中で当時、「絆」という言葉が盛んに語られました。被災者を孤立化させずに寄り添い、支えていくこと。その年の漢字に「絆」という字が選ばれたことから、皆が何を真剣に求めていたかがうかがえます。

しかしながら年月が経過していく中で「絆」の意識は、次第に疎かになっていったように思います。

そんな中で迎えた10年目の今日、私たちは改めて、「絆」を真剣に考えざるを得ない状況に置かれています。新型コロナウイルスは、多くの人々の命を脅かすと同時に、

私たちの社会、そして互いの関係性を破壊し続けているからです。

今年2月、内閣府に「孤独・孤立対策担当室」が新設されました。コロナ禍で女性や子ども

の自死が増え続けている現実に対応するため、担当大臣まで任命されました。それほどまでに孤独・孤立が問題になっているということでしょう。

あるフランス文学者が昨年、「これからの世界で課題となるのは、人間の孤立であり、広く連帯できるかどうか鍵だろう」と新聞に寄稿していました。人と人との結びつき、確かな「絆」の確立。今、私たちはこの課題に再度、向き合わねばならないと思います。

3月11日の新聞各紙に、福島県立会津学鳳高

新型コロナウイルスの影響で昨年中止していた「東京YMCA早天祈祷会」を4月1日、オンラインで開催し、東京YMCA評議員会会長で牧師の古賀博氏（日本キリスト教団早稲田教会）より、「今、改めて「絆」と題し説教をいただきました。

学校の平子七海さんの言葉が掲載されていました。平子さんは今、新型コロナウイルスによって「10年前と同様に、当たり前に当たり前でなくなっている」とした上で、次のように語っています。

「あの日私たちは、波に飲みこまれていく人々の手を、掴み取って救うことができなかった。だから今度は、社会から分断されてゆく人々の手を握り締めて、離さないで。みんながもつと自分を、他者を愛せる世界を願っています。そして私自身がそうでありたい」。

聖書「コロサイの信徒への手紙」3章14節には「愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです」とあります。孤立ではなく連帯を、分断ではなく繋がりを、作り「絆」を形成していく。東京YMCAに連なる私たちは、このことを課題に今年度も歩みたいと思います。

（まとめ・広報室）

2021年度 全体運営方針について

総主事／代表理事 菅谷 淳

新年度の東京YMCA運営方針が理事会と評議員会で承認されました。その概要を解説とともにお知らせします。

1 全国のYMCAとともにブランディング・プロジェクトを推進する。

↓引き続きブランディングを推進し、「YMCAとは何か」をわかりやすく伝え、より多くの人々から選ばれる存在となることを目指します。

2 社会のニーズを新しい視点で捉え、既存事業を強化し新規事業を開発する。

↓現在行っている運動、活動、事業がどのような社会的課題やニーズに応えているのかを明確にし、既存事業の見直しを探ります。新規事業の開発には、時代に敏感な若い職員や会員等の発想を積極的に取り入れる方策を考えます。

3 全ての運動、活動、事業をCause（存在根拠）に沿って再編し、達成すべき目的を明確にするために抜本的な組織変革を行う。

↓YMCAの行っている運動、活動、事業を「学校」「キャンプ」といった業種別ではなく、「青少年の健全育成」「国際人の養成」などのように目的別に組み替えてわかりやすくし、それに合わせて組織を変えていきます。

4 会員制度をあらゆる角度から検証し、魅力ある新しい制度を確立する。

↓「会員II会費を払う人」ではなく、奉仕活動や寄付によってYMCAを支援くださる多くの方をも会員と位置づけられないかなど、会員制度の抜本的な見直しを行い、活性化を目指します。

5 次の時代を担う人材獲得とリーダーシップを育成する。そのために働き方を改革し研修制度のさらなる充実を図る。

↓職員の年齢バランスを整え、次代を担う有能なスタッフの育成に力を入れます。魅力ある職場にするため、待遇改善、研修制度の充実などを図ります。

6 オンライン会議、SNS、新しいアプリケーションの導入などテクノロジーを駆使しアフターコロナ、ウィズコロナにおけるYMCAのニューノーマルを確立する。

↓引き続きオンラインを活用し、移動が困難な高齢者や障がい者、遠方の方などより多くの方に門戸を広げていきます。

7 かけがえのない命を守るため、一人ひとりの危機管理に対する意識を高め、防災・減災について学び、安全管理のための正しい知識と理解を深める。また災害や事故の発災時には的確かつ機敏に行動できる体制を整える。

↓被災地から学んだ教訓を無駄にせず、防災、減災、危機管理に真剣に取り組み、災害から大切な人の命を守る万全の準備をしていきます。

8 学校法人東京YMCA学院、YMサービス株式会社、国内外のYMCA、ワイズメンズクラブ、他団体との交流、協働を進め、新しい支援関係、協力関係を作る。

↓たとえば公有地再開発など大規模新規事業は、東京YMCAグループや地区別YMCAで協働体制を整えて進めます。他団体との協力も推進します。

9 大幅な収入減にある事業を抜本的に見直し、可能な限りの方策を立て、聖域なき支出削減に取り組んで収支相償を目指す。

↓コロナ禍で収入が落ち込んだ事業は、元に戻るのを待つのではなく、思いきって中止することも視野に入れ、収支バランスを取ることを心がけます。

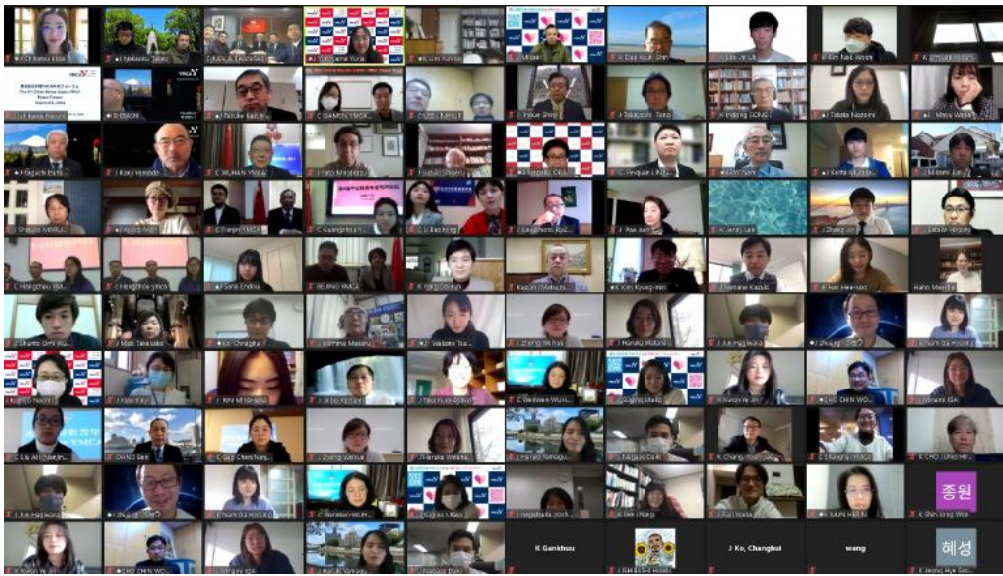
10 全国YMCAで策定した日本YMCA中期計画を推進する

↓「日本YMCA中期計画」に掲げられたテクノロジーの活用やユースの育成など、全国YMCA共通の課題についてはより連携を強めて推進します。

赤△三角

コロナ禍で日本のYMCAは「はなれていてもつながっている」とキャンペーンを呼びかけたが、私は実は以前から、YMCAは「つながっている」と思ってきた▼約十年前、世界YMCA同盟の第1期チェンジ・エージェンツとして、世界の仲間たちとオンラインで研修を受け、討議をした。今年の東京YMCAソシアスフォーラムには香港の自宅から参加した。距離が離れていても疎遠というわけではない▼最近、社会福祉の実践家、糸賀一雄の書籍に翻訳者として携わった。キリスト者の糸賀は重度障がい児施設を創設し「この子らを世の光に」という言葉を残している。書籍は福祉施設職員とさまざまな学問の専門家によって編まれたが、糸賀の思想を通し、学問分野の違いや研究者と実践家の間にある距離が縮まり、つながったと感じた。私が東京YMCA在職中に障がいのある子どもたちや介護福祉士を志す学生たちと関わったことも活かされた▼YMCAの「はなれていてもつながっている」も、ユースとシニア、会員と職員、日本と世界、ローカルとグローバルなどさまざまな違いや壁を越えてつながり、多様性が活かされることを願っている。

（会員 永岡美咲）



新型コロナウイルスの影響により延期となっていた「第8回日中韓YMCA平和フォーラム」が3月6日、オンラインで行われ、3カ国から約100人が参加した。これは北東アジアの平和構築のため2004年から隔年で開催している。今年は日本YMCA同盟が主管となり、コロナ禍で国際的な活動が制限されている中、それぞれの状況を共有して交流を深めることを目的に開催された。東京YMCAからは職員の本数実と張津の2人が参加した。

基調講演では関田寛雄氏（日本キリスト教団神奈川教区巡回教師）から、「パンデミックの中で文明が問われている。分かち合いの倫理を回復

していくことにYMCAの大きな役割がある。コロナは汝、貪るなかれ、という神の警告でもある。」という力強い言葉が与えられた。

その後、3カ国の総主事より近況報告があり、コロナ下での対応が共有された。韓国では、さまざまな活動が休止され経済的に困難な状況にありながらも、北朝鮮をはじめ

YMCAに伝えたとの報告もあった。日本からはコロナ対策に加えて、台風19号の支援活動などが報告された。

「分かち合いの倫理」目指して

日中韓YMCA平和フォーラム オンライン開催

新型コロナウイルスの影響により延期となっていた「第8回日中韓YMCA平和フォーラム」が3月6日、オンラインで行われ、3カ国から約100人が参加した。これは北東アジアの平和構築のため2004年から隔年で開催している。今年は日本YMCA同盟が主管となり、コロナ禍で国際的な活動が制限されている中、それぞれの状況を共有して交流を深めることを目的に開催された。東京YMCAからは職員の本数実と張津の2人が参加した。

基調講演では関田寛雄氏（日本キリスト教団神奈川教区巡回教師）から、「パンデミックの中で文明が問われている。分かち合いの倫理を回復

していくことにYMCAの大きな役割がある。コロナは汝、貪るなかれ、という神の警告でもある。」という力強い言葉が与えられた。

その後、3カ国の総主事より近況報告があり、コロナ下での対応が共有された。韓国では、さまざまな活動が休止され経済的に困難な状況にありながらも、北朝鮮をはじめ

YMCAに伝えたとの報告もあった。日本からはコロナ対策に加えて、台風19号の支援活動などが報告された。

「日中韓平和フォーラム」に参加して

東京YMCA職員

張津

今回はオンラインでの開催となったが、3カ国のシニアとユース91人が顔を合わせ、基調講演、近況報告を聴き、平和についての活動の情報を共有することができた。

コロナ禍にありながらも、各国YMCAは地域を超えた社会救援活動に従事し、社会問題に積極的に向き合っている姿を垣間見ることができた。中国YMCAからはコロナの感染対策について住民向けにオンラインで講座を開催していることなどが報告された。韓国YMCAはワクチンの不平等な分配に対して平和運動を提唱しているという。ユースとシニアに別れたセッションでは、より具体的な情報交換と課題共有を行った。中国YMCAはユースのメンタル問題について、日韓

の取り組みを参考にしたいとリクエストがあった。韓国YMCAは、北朝鮮への人道支援活動を行なうため中国の協力を求めたりと、新しい提案もあった。それぞれのYMCAが社会が直面している問題に対し強い責任感を持ち、平和を作る種を撒播する活動を展開することで東北アジアにおける平和運動に邁進している。

聖書には、「平和を作る人は幸いです。その人は神の子と呼ばれるからです。」と記されている（マタイによる福音書5章9節）。今回のフォーラムに参加し東北アジアの平和を共に祈る中で、聖書の言う平和がどのようなものか、そしてどうしたらその平和を築いていけるのかを考える良い機会となった

各国YMCAの今

■ソウルYMCA

早朝6時から夜間11時頃、市民活動のため眩い明かりが灯っていたソウルのYMCA会館。突如、新型コロナウイルスという障壁に立ち塞がれ、会員たちから汗や笑顔が一瞬にして消え去った。

渦中、迅速に非常時の運営体制へ切り替えた。ホテル運営は休業、スタッフには労働時間短縮と希望休職を実施、政府施策に従いプログラム人員の制限や休館を繰り返し、対話方式の変容から会員交流が疎遠にならぬよう手を尽くしている。YMCA運動への未来を望み、2020年9月1日には第27代会長に曹圭太氏が就任、今年3月2日には大型の研修施設「ソウルYMCA高陽国際青少年文化センター」（＝写真）が活動を開始した。

コロナ時代における力強い出発と跳躍を目指し、会員とスタッフ皆が『すべての人を一つにしてください（ヨハネ17章21節）』という聖句のとおり、一丸となり精一杯励んでいるところである。

（在日本韓国YMCA総務 朱 宰亨）



■NY フロストバレーYMCA

北米屈指の広大なキャンプ場を誇るフロストバレーYMCAもまた、2020年3月から9月まで、サマーキャンプを含めすべてのプログラムを中止した。収入のない中、必要最小人数のスタッフ以外は解雇、あるいは休職（無給）とし支出の削減に努めた。秋以降は、感染対策ガイドラインの緩和に伴いプログラムの再開が可能となったが、人件費、設備費を最小限に抑えるため、週末に限定して数回オープンするにとどめ、リスクの低いファミリーキャンプのみを実施した。

春からは週末のファミリーキャンプに加えて、限られた回数ではあるが平日に学校団体を迎えることになっている。サマーキャンプは例年の50%の定員で実施を予定しており、ただいま実施に向けて準備を進めている。現在も平常時の約3分の1のスタッフ数にて運営を続けており、その徹底的なコストカット、また銀行からの借入、政府からの補助金（給与保護プログラムPPPローン）、そして何よりもキャンパーの保護者やOB OG、理事役員や個人、団体からの多くの寄付により財政的バランスを保っている。

（在フロストバレーパートナーシップ 鳩山徹郎）

コロナの影響により、例年活発に行われている国際交流プログラムの多くが実施できない状況が続いています。東京YMCAとパートナーシップ関係にある4YMCAの近況を紹介します。

■バングラデシュYMCA

バングラデシュYMCAはピリシリ村など国内7カ所で、公立の小学校に通えない子どもたちのための初等教育プログラム（NFP E）を行っており、現在約240人が在籍。東京YMCAも国際協力募金によってこれを支援している。



コロナの影響で昨年からは休校が続いていたが、今年2月に入ってワクチン接種が開始されたこともあり、4月からは登校再開の予定である。

バングラデシュは昨年7月、国土の3分の1が浸水するという大規模な洪水に見舞われた。コロナ禍もあって被害は深刻となり、アジア・太平洋YMCA同盟に援助要請があり、東京YMCAは3000ドルの支援を行った。東京YMCAは過去にも8つのサイクロンシェルター建設を支援するなどしてきたが、国土の75%が海拔10メートル未満という立地条件もあって歴史的に洪水被害が続いており、この国の課題となっている。

一方で昨年3月には、ホテルも兼ねた「YMCA インターナショナル・ハウス」が首都ダッカに完成し、今年4月29日には延期になっていた献堂式が行われる。この会館の収益は、ユース、女性の自立を目的とした活動に用いられる予定である。（東京YMCA国際部 松本数実）

■北京YMCA

北京では新型コロナウイルスの感染状況はだいたい落ち着き、PCR検査や抗体検査の証明により、他地域から北京市内への移動は以前より自由になってきている。北京YMCAと東京YMCAは1992年にパートナーシップを締結して以来、訪問団による交流や、北京市郊外の上鎮小学校の支援などを続けてきた。近年は山中湖センターで北京の子どもたちにキャンプを体験してもらう「国際交流キャンプ」を実施し、好評につき年々参加者が増えている。昨夏は残念ながら実施を断念したが、「新型コロナウイルスが収束し、渡航も自由になったらキャンプを再開し、中国の子どもたちにかげえのない体験を提供できることを心待ちにしている」と、これまでキャンプを担当していた北京YMCAスタッフから連絡があった。

（東京YMCA総務部 戸坂昇子）

東日本大震災10年 オンライン礼拝と福島パネル展

東日本大震災から10年を迎えた3月6日、東京YMCAは「東日本大震災10周年礼拝」をオンラインで開催しました。また3月1日から6日には、震災を風化させないとの願いを込めて「福島



↑東陽町で開催された「福島パネル展」。

パネル展」を東陽町会館で実施しました。10周年礼拝は45名の参加者で、震災が起きた14時46分に合わせて黙とうをさげた後、成増キリスト教会の飯岡洋介牧師より「隣人を自分のよう

とくか」と題して説教をいただきました。飯岡牧師は、石巻から20キロほどの涌谷教会に赴任中だった震災当時を振り返りながら、隣人を愛するとはどういうことか、隣人になるとはどのようなことかと問いかけられ、改めて考えさせられる礼拝となりました。

第二部は支援活動を振り返る時とし、元東京YMCA職員で5年にわたった伊藤剛士さんと、リフレッシュキャンプにボランティアとして参加した

ンティアとして参加した三菱商事社員の松浦航太郎さん、名村有里子さんにお話をいただきました。伊藤さんからは、震災

最後に菅谷淳総主事より、「YMCAはただ泥かきや、プログラム等の支援をしただけでなく、現地にコミュニティを

形成し、石巻広域ワイズメンズクラブをはじめつなかりを作った働きが大きいと感じる」との感想が述べられ、会は終了し

ました。今後も地域とのつながりを大切にしながら、支援を続けたいと願います。（会員部統括 中里 敦

不登校など青少年の居場所支援へ

libbyチャリティコンサート



→右から田口裕氏、越智光輝氏、門倉美香氏

不登校など生きづらさを抱える青少年の居場所「第22回libbyチャリティコンサート」が3月14日、山手センターで開催されました。昨年はコロナ禍で中止となりましたが、今年は何として開催したいと、来場だけでなくオンライン配信も駆使し、感染対策を徹底して開催にこぎつけることができました。結果、オンラインと来場者

を合わせて70人の善意が集められました。このコンサートを当初から支えてくださっている「たんぼぼYサービスクラブ」の会長で実行委員長の高智京子さん、演奏者の「越智光輝さん」とゆかいな仲間たち」のみなさん、技術面で協力く

だったバトンプロダクツ(株)や三菱商事(株)に心から感謝申し上げます。この一年、libbyという居場所事業は窮地に立たされ続けました。しかし心の距離が離れない

ように、感染対策に気を遣い、居場所を守っています。どうぞこれからもlibbyをよろしくお願いたします。（libby主任主事 井口 真

春のスキーキャンプ 万全の感染対策で再開



2020年1月以降中止していたスキーキャンプを3月26日、30日、志賀高原で実施しました。依然として新型コロナウイルス感染症が心配される中で、1部屋の人数を通常の半分とし、宿舎内には特設のパーティションを設置、引率者は事前にPCR検査を実施するなど、でき得る限りの工夫をして臨みました。

参加したのは小学4年生から6年生18人と、中高生20人の計38人。引率のボランティアリーダーは研修の目的も兼ねて21人が参加。職員も4人と異例の手厚い体制で、消毒など感染対策だけでなく、運動不足が懸念され

る子どもたちの安全管理も徹底し、無事に終了することができました。今回参加した保護者からは「この一年、子どもたちが置かれた状況を考え、楽しいふれあいの体験をさせたいと思った」「YMCAなら信頼できると思い、実施を待っていた」といった声が聞かれました。

（野外教育部 三浦壮一郎）

気候変動から 生き方を考える

余島で「ユースフォーラム」 講師に宮台真司さん



「気候変動から考える、私たちは何を引き受け、どう生きるか」をテーマに3月22日～25日、初めての「YMCAユースフォーラム」が開催され、全国YMCAから中学生6人、高校生4人、大学生20人、社会人5人が参加した。

このフォーラムは、世界各地のYMCAで気候変動に対するさまざまな取り組みが行なわれている中、「日本でも何かしたい」と考えたユースたちの発案から始まったもので、神戸YMCAが主催となり、企業等の協賛を得て行なわれた。会場は、瀬戸内海の無人島にある「神戸YMCA余島キャンプ」で、かねてから神戸YMCAと交流のあった社会学者の宮台真司さんが講師として2日間参加された。

今回は、気候変動を知識として学ぶのではなく、人と自然の関係そのものを体感し直すというユニークなアプローチで行なわれた。まずは「木こり体験」をして実際に木を切り、人は生活のために木を切るということ、木を切るためには道具を使い、木を切れば光が差すことなど、普段は気にとめないような一つ一つの行為を注意深く体験した。宮台真司さんによれば「感情が劣化」している現代人の「心に訴えかける」体験だった。続く討議も、余島という無人島キャンプ場の浜辺で、波音を聴きながら行なわれた。

気候変動の課題は、それだけを見ても解決にはならず、どう生きるのかという「構え」に関わる問題であり、私たちは常に考える習慣をつけないといけない。そんなことを教えられた4日間であった。今後は、今回の参加者たちが実行委員となり、次の企画へと発展させていくことが期待されている。

(インターナショナルスクール 池田麻梨子)



永井三郎氏
(1896～1990年)

今回は、会員西森末次郎が我々に託した紙包み「創立

シリーズ
資料室の窓から(111)

永井三郎に学ぶ

本会元副総主事

齊藤 實

二百年祝典で開けられたし」を紹介した。今回はその二百年祝典を見据えつつ語った先輩に聴く。創立百周年祝典を目前にした1979年3月、「東京YMCAの歴史を学ぶ」集会で、講師永井三郎が語った言葉に学んで、今を確信し直したいのである。

永井先輩は、日本YMCA同盟総主事退任後を、東京YMCA英語学校校長として若者たちと接し続けられた。「学ぶ会」で配布した資料の最終項目「今後100年の展望」を、今しつかりと見つめ直したい。当時84歳を迎えておられた大先輩からの大事な発言なのである。

《YMCAが今日見られ

るような発展をなし、又その活力を維持し得たのはそのうちに内蔵する下記のような基本的な矛盾を克服するたえざる努力を続けてきたことに依ると思われる。

①より完備した施設を拡充しながら「運動としての活力を発展させる」。

②会員の主体的参加に依存しながら「受動的な会員の層を拡大して行く」。

③キリスト教の信仰を中心としながら「信者でない多くの会員とリーダーとに依存している」。

④青少年団体でありながら

《各年齢層の会員を持つ

⑤ボランティア運動でありながら「主事・職員の有力なスタッフを持つている」。

⑥伝統を重んじながら「バイオニアたらんと絶えず努めている」等と。

静かな語り口であるが、しっかりとくみしめ直し続けたい言葉である。永井三郎は、私が新人主事であった頃は、YMCAの歴史を説く教師であった。『東京キリスト教青年会百年史』の査読は克明で、数百カ所に赤い付箋を付けて私の手元に戻された。今は、資料室の永久保存資料である。

（太字、丸数字と◇は齊藤が付けた）